

各地で話題の病害虫

ルイスハダニ (仮称)

学名: *Eotetranychus lewisi* (McGregor)

英名: Lewis spider mite

1997年 9月に奈良県のポインセチア施設栽培圃場で発生が確認された。我が国では、初めての発見である。

本種は、アメリカ・中米・ハワイ・アフリカ等に分布しポインセチア、カンキツ類及びパパイアの害虫として知られている。また、イチジク、モモ、オリーブ等も寄主植物として報告されている。

形態は、ナミハダニに似るが、やや小型である。体色は黄緑色～淡黄色で、雌成虫の体長は約470 μm 、体幅は約240 μm 、雄成虫の体長は約340 μm 、体幅は約170 μm である。



奈良県病害虫防除所 国本佳範氏提供

本種による被害は、吸汁によるもので、他のハダニによる被害と同様に葉の退色、黄化等の症状がある。小型のハダニであるため早期発見は困難であり、また、発生初期段階において、本症状がウイルス病の病徴や生理的な異変症状とよく似ている場合があるため誤認することがある。

防除対策としては、まず本種の寄生苗を持ち込まないことである。既発生施設では、被害株及び放置株の処理の徹底が重要である。

ポインセチアに対する本種の防除には、コナジラミ類に農薬登録がある、ピリダベン水和剤、キノキサリン系水和剤が有効である。

メロンホモプシス根腐病

学名: *Phomopsis sclerotioides* van Kesteren

1994年頃から島根県八束郡のメロン(品種: FRアムス、おくにメロン)で、着果後まもなく地上部が萎凋し、根部が褐変腐敗する症状が発生していた。1997年、島根県農業試験場の調査により島根県では初発生のホモプシス根腐病であることが確認された。本病は神奈川県三浦半島で1988年頃から発生し、1992年、神奈川県の調査により *P. sclerotioides* による病害であることが判明しているもので、その後茨城県でも発生が確認されている。

病徴は、主に着果期以降に現れ、発病株は全身が萎凋しやがて枯死する。発病株の多くは細根が



神奈川県農業総合研究所 小林正伸氏提供

脱落し、激しく侵されると太い根まで水浸状に褐変腐敗する。被害根は部分的あるいは全体的に灰色～黒色となり、また、顕微鏡で観察すると、入れ墨様の黒色斑紋や微小な菌核様組織が認められ、黒点根腐病などの病害と区別できる。

本病は、メロン、カボチャ、カボチャ台キュウリ及びユウガオ台スイカでの発生が報告されている。

防除対策としては、伝染源となる被害株の根を丁寧に抜き取り焼却する。また、本菌は30℃以上で6日間で死滅するように高温に弱いため、メロン収穫後の夏場にほ場をビニール被覆する太陽熱を利用した土壌消毒が効果的である。